

新たな「原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画」  
(以下「原子力長計」)の検討状況について

平成16年10月  
原子力委員会

## 1. 原子力長計について

原子力長計については、原子力委員会が昭和31年からこれまで概ね5年毎に合計9回策定してきており、来年11月で現行の計画策定から5年を迎えることとなるため、本年6月から策定作業に着手。17年内の新計画の取りまとめを目指すこととしている。

想定している主な内容

- ・安全確保と防災等国民・社会と原子力の調和
- ・原子力発電と核燃料サイクル
- ・原子力科学技術、放射線利用
- ・国際社会と原子力の調和
- ・人材確保等推進基盤

## 2. 策定状況

国民各層からの意見を幅広く聴取するために、「長計に関する意見募集」(475件の応募)を行うとともに、「長計についてご意見を聴く会」(本年1月から延べ16回)及び「市民参加懇談会」(3月27日開催)を開催した。

6月15日に、原子力委員会は、新計画策定会議の設置と今後の進め方を決定し、第1回新計画策定会議を6月21日に開催した(委員名簿は別紙)。

原子力長計で検討すべき項目のうち、特に重要な課題である核燃料サイクル政策に係る政策評価から着手した。

次回新計画策定会議は、10月22日に開催を予定し、核燃料サイクル政策に係るこれまでの評価を踏まえ、核燃料サイクル政策の方向性について議論される予定。(10月18日の報道で「原子力委員会は核燃料サイクル政策を基本的に維持する方針を固めた。」とあるが、報道にあるような方針を原子力委員会が固めたという事実はない。)

### 3. 核燃料サイクル政策にかかる政策評価の状況

核燃料サイクル政策に係る評価を幅広い観点から実施するため、次の視点から総合的な評価を実施することを新計画策定会議で合意。

安全の確保	(各シナリオにおいて安全の確保は図られるか)
エネルギーセキュリティ	(資源の節約、供給安定性)
環境適合性	(循環型社会との整合性、放射性廃棄物の諸量比較、二酸化炭素発生量等)
経済性	(各シナリオ間における経済性の比較)
核不拡散性	(核不拡散、核物質防護の観点からの比較)
技術的成立性	(各シナリオにおいて技術の困難性はどうか)
社会的受容性	(各シナリオにおいて必要な施設の立地が可能か)
選択肢の確保	(各シナリオにおいて将来の柔軟性はどのように確保されるか)
政策変更するとした場合の課題	(既存の投資の扱い、新規発生コスト、他の原子力事業への影響)
海外の動向	

総合評価のためのツールとしての「基本シナリオ」を、新計画策定会議で設定。この「基本シナリオ」は政策の選択肢ではなく、あくまでも評価のツールとして仮想的に設定したもの。

- |        |  |
|--------|--|
| 全量再処理  | ( 現行の政策の考え方 )                              |
| 部分再処理  | ( 六ヶ所処理工場の能力を上回る使用済燃料については、<br>中間貯蔵後直接処分 ) |
| 全量直接処分 | ( 再処理は行わずに使用済燃料を全て直接処分 )                   |
| 当面貯蔵   | ( 当面、中間貯蔵し、その後直接処分か再処理かを決定 )               |

経済性の観点からの評価については、技術検討小委員会でコスト比較に必要な技術的事項（直接処分の概念等）についての検討を行い、直接処分のコスト試算も含め、基本シナリオ毎のコスト試算を10月7日に取りまとめ、同日開催の新計画策定会議に報告。

### 市民参加懇談会等の開催

10月29日に「核燃料サイクル政策」について市民からご意見をいただくべく、第9回市民参加懇談会を大阪で開催予定。いただいたご意見は新計画の審議に反映する。

新計画の審議状況（骨子、案文が取りまとめられた段階等）に応じて、広く意見募集等を行い審議に反映する。

## 「長計についてご意見を聴く会」の開催実績及び開催予定

第1回 平成16年 1月28日(水) 19:00~21:00

- ・内山洋司(筑波大学教授)
- 「将来のエネルギー需給の展望  
- エネルギー基本計画と今後の課題 -」
- ・山地憲治(東京大学教授)
- 「地球温暖化対策における原子力の意義  
- 定量的政策評価の事例として -」

第2回 平成16年 2月 9日(月) 18:30~20:00

- ・寺島実郎(三井物産戦略研究所所長)
- 「日本のエネルギー戦略への基本視点」

第3回 平成16年 2月16日(月) 10:00~12:30

- ・村上陽一郎(国際基督教大学大学院教授)
- 「原子力と社会のかかわり - 安全と安心 -」
- ・長谷川公一(東北大学大学院教授)
- 「原子力と社会のかかわり  
- 原子力発電に関する社会的合意形成をめぐる諸問題 -」

第4回 平成16年 2月 23日(月) 14:00~15:30

- ・佐和隆光(京都大学経済研究所所長)
- 「電力自由化のもとでの原子力発電のあり方」

第5回 平成16年 3月 2日(火) 10:30~12:30

- ・飯田哲也(環境エネルギー政策研究所所長)
- 「原子力政策の今日的課題」
- ・マイケル・シュナイダー Mycle Schneider(科学ジャーナリスト)
- 「From Nuclear Dream to Plutonium Nightmare?  
Status and Outlook of Nuclear Power and Plutonium Industries」

第6回 平成16年 3月 8日(月) 14:00~17:00

- ・竹内敬二(朝日新聞論説委員)
- ・飯田浩史(産経新聞論説顧問)
- ・塩谷喜雄(日本経済新聞論説委員)
- ・菊池哲郎(毎日新聞論説委員長)
- ・井川陽次郎(読売新聞論説委員)
- 「原子力長期計画について」

第7回 平成16年 3月 12日(金) 13:00~14:30

- ・柏木孝夫(東京農工大学大学院教授)
- 「原子力委員会・長計についての私見」

第8回 平成16年 3月 16日(火) 10:30~12:00

- ・植田和弘(京都大学大学院教授)
- 「原子力発電の環境経済・政策的諸問題」

第9回 平成16年 3月 18日(木) 15:00~16:30

- ・小林傳司(タジ)(南山大学教授)
- 「なぜ市民参加が必要になっているのか」

第10回 平成16年 3月 30日(火) 14:00~15:30

- ・兒島伊佐美(電事連副会長)
- 「原子力長計に期待すること」

第11回 平成16年 4月 14日(水) 10:00~11:30

- ・内藤正久(日本エネルギー経済研究所理事長)
- 「原子力長計の検討にあたり要望したい事項(私見)」

第12回 平成16年 4月 14日(水) 14:00~15:30

- ・橋本 昌(マサル)(茨城県知事)
- 「原子力長期計画について」

第13回 平成16年 4月 15日(木) 10:00~12:00

- ・木村逸郎(株)原子力安全システム研究所技術システム研究所長  
日本学術会議会員、京都大学名誉教授)
- 「原子力学の再構築」
- ・田中知(東京大学教授、日本学術会議研連幹事)
- 「大学における原子力研究・教育の新しい取組」
- ・藤井靖彦(東京工業大学教授、日本学術会議会員)
- 「原子力の人材育成と産学官・地域連携」

第14回 平成16年 4月 22日(木) 10:00~12:00

- ・秋庭悦子(消費生活アドバイザー)
  - ・伊東依久子(消費科学連合会 副会長)
  - ・三村光代(消費生活アドバイザー・コンサルタント協会監事)
  - ・渡辺光代(日本生協連 理事)
- 「原子力長期計画について」

第15回 平成16年 6月 1日(火) 14:00~16:00

- ・スティーブ・フェッター博士(Dr. Steve Fetter)
- (メリーランド大学教授)
- 「The Economics of Reprocessing and Recycle v. Direct Disposal」

第16回 平成16年10月4日(月) 10:00~12:00

- ・フランク・フォン・ヒッペル博士(Dr. Frank von Hippel)
- (プリンストン大学教授)
- 「Reducing fissile-material stocks for nuclear disarmament and to reduce the dangers of proliferation and nuclear terrorism」

第17回 平成16年10月20日(水) 17:00~19:00(開催予定)

- ・芦野英子(弘前市)
  - ・荒木茂信(東北町)
  - ・木村将人(尾上町)
  - ・唘清悦(天間林村)
  - ・二本柳晴子(六ヶ所村)
  - ・三笠朋子(八戸市)
- 「核燃料サイクル政策について」

## 原子力長計に関する「意見募集」と「市民参加懇談会」の開催実績及び開催予定

<原子力長計策定開始前に実施>

「広聴」の観点からより多くの方々からご意見をいただくため、広く国民を対象に「意見募集」を実施。

・募集期間：平成16年2月18日~3月12日

応募していただいた方から直接ご意見を伺う場として「第7回市民参加懇談会」を開催。

・開催日時：平成16年3月27日(土)(13:00~17:00)

(於：銀座フェニックスプラザ)

<核燃料サイクル政策に関して>

核燃料サイクル政策に関して直接ご意見を伺う場として「第9回市民参加懇談会」を開催予定。

・開催日時：平成16年10月29日(金)(13:30~17:00)

(於：IMPホール(大阪))

## 新計画策定会議の開催実績及び開催予定

### （新計画策定会議）

- 第1回（6月21日）：新計画策定に際しての意見の聴取 等
- 第2回（7月8日）：新計画にかかる審議の重点分野と政策検討の視点について検討 等
- 第3回（7月16日）：核燃料サイクル政策に係る評価の視点について検討 等
- 第4回（7月29日）：核燃料サイクル政策の評価のための「基本シナリオ」について、技術検討小委員会の設置 等
- 第5回（8月11日）：核燃料サイクル政策の評価のための「基本シナリオ」について 等
- 第6回（8月24日）：安全の確保、基本シナリオの核燃料サイクル諸量の分析 等
- 第7回（9月3日）：基本シナリオについてエネルギーセキュリティ、社会的受容性の視点から検討 等
- 第8回（9月24日）：各視点からの「基本シナリオ」の評価について 等
- 第9回（10月7日）：各視点からの「基本シナリオ」の評価について 等
- 第10回（10月22日）：核燃料サイクル政策の方向性（予定）

### （技術検討小委員会）

- 第1回（8月10日）：検討課題の確認 等
- 第2回（8月24日）：直接処分概念 等
- 第3回（8月31日）：核燃料サイクルコストの計算方法 等
- 第4回（9月10日）：核燃料サイクルコストの計算方法 等
- 第5回（9月24日）：直接処分場の概念 等
- 第6回（10月7日）：核燃料サイクルコスト計算結果 等

(別紙)

## 新計画策定会議構成員

委員は、調査審議に広く国民の意見を反映させるため、原子力委員会  
が、地方自治体、有識者、市民/NGO等、事業者、研究機関から、専  
門分野、性別、地域のバランス、原子力を巡る意見の多様性の確保に  
配慮して選んだもの。原子力委員も構成員。

(議長)近藤 駿介 原子力委員会 委員長

井川 陽次郎 読売新聞東京本社 論説委員

井上 チイ子 生活情報評論家

内山 洋司 筑波大学大学院 システム情報工学研究科リスク工学  
専攻 教授

岡崎 俊雄 日本原子力研究所 理事長

岡本 行夫 外交評論家

勝俣 恒久 東京電力株式会社 取締役社長(日本経済団体連合会  
副会長)

河瀬 一治 敦賀市長(全国原子力発電所所在市町村協議会 会長)

神田 啓治 京都大学名誉教授、エネルギー政策研究所 所長

木元 教子 原子力委員会 委員

草間 朋子 大分県立看護科学大学 学長

児嶋 眞平 福井大学 学長

齋藤 伸三 原子力委員会 委員長代理

笹岡 好和 全国電力関連産業労働組合総連合 会長

佐々木 弘 放送大学 教授

末永 洋一 青森大学総合研究所 所長

住田 裕子 弁護士、獨協大学特任教授

田中 知 東京大学大学院 工学系研究科 教授

千野 境子 産経新聞社大阪本社 特別記者 論説委員

殿塚 猷一 核燃料サイクル開発機構 理事長

中西 友子 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授

庭野 征夫 (社)日本電機工業会 原子力政策委員会 委員長

(株)東芝 執行役上席常務 電力・社会システム社 社長)

橋本 昌 茨城県知事

伴 英幸 原子力資料情報室 共同代表

藤 洋作 電気事業連合会 会長(関西電力株式会社 取締役社  
長)

前田 肇 原子力委員会 委員

町 未男 原子力委員会 委員

山地 憲治 東京大学 新領域創成科学研究科先端エネルギー工  
学専攻 教授

山名 元 京都大学 原子炉実験所 教授

吉岡 斉 九州大学大学院 比較社会文化研究院 教授

和気 洋子 慶応義塾大学 商学部 教授

渡辺 光代 日本生活協同組合連合会 理事